

四半期報告書

(第116期第3四半期)

自 2022年10月1日

至 2022年12月31日

パナソニック ホールディングス株式会社

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年2月10日
【四半期会計期間】	第116期第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	パナソニック ホールディングス株式会社
【英訳名】	Panasonic Holdings Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役 社長執行役員 楠見 雄規
【本店の所在の場所】	大阪府門真市大字門真1006番地
【電話番号】	大阪 (06) 6908-1121
【事務連絡者氏名】	財務・IR部 部長 和仁古 明
【最寄りの連絡場所】	東京都港区東新橋一丁目5番1号（パナソニック東京汐留ビル） パナソニック ホールディングス株式会社
【電話番号】	東京 (03) 3437-1121
【事務連絡者氏名】	財務・IR部 主幹 新庄 啓吾
【縦覧に供する場所】	パナソニック ホールディングス株式会社 （東京都港区東新橋一丁目5番1号（パナソニック東京汐留ビル）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第115期 第3四半期 連結累計期間	第116期 第3四半期 連結累計期間	第115期
会計期間	自2021年4月1日 至2021年12月31日	自2022年4月1日 至2022年12月31日	自2021年4月1日 至2022年3月31日
売上高 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	5,423,356 (1,889,802)	6,224,521 (2,160,592)	7,388,791
税引前利益 (百万円)	279,376	255,447	360,395
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)純利益 (第3四半期連結会計期間) (百万円)	195,634 (42,591)	162,870 (55,533)	255,334
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	319,291	360,401	630,527
親会社の所有者に帰属する持分 (百万円)	2,854,801	3,459,238	3,164,962
資本合計 (百万円)	3,031,737	3,631,224	3,347,171
資産合計 (百万円)	7,376,772	8,006,613	8,023,583
基本的1株当たり親会社の 所有者に帰属する四半期 (当期)純利益 (第3四半期連結会計期間) (円)	83.83 (18.25)	69.78 (23.79)	109.41
希薄化後1株当たり親会社の 所有者に帰属する四半期 (当期)純利益 (円)	83.80	69.76	109.37
親会社所有者帰属持分比率 (%)	38.7	43.2	39.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	103,934	313,724	252,630
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△760,851	△215,799	△796,149
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△89,883	△516,608	58,910
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	889,745	820,097	1,205,873

(注) 1 当社は、国際財務報告基準（以下、「IFRS」）に基づいて要約四半期連結財務諸表及び連結財務諸表を作成しています。

2 当社は、要約四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。

2【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社524社を中心に構成され、総合エレクトロニクスメーカーとして関連する事業分野について、国内外のグループ各社との緊密な連携のもとに、開発・生産・販売・サービス活動を展開しており、「くらし事業」「オートモーティブ」「コネクト」「インダストリー」「エネルギー」の5つの報告セグメントと、報告セグメントに含まれない事業セグメント及びその他の事業活動から構成されています。各セグメントの詳細については、要約四半期連結財務諸表注記「3. セグメント情報」に記載しています。

当第3四半期連結累計期間において、主要な関係会社の異動は、以下のとおりです。

当社は、2022年4月1日付で、吸収分割により当社の各事業を連結子会社である、以下の分割承継会社9社へ承継するとともに、同日付で、パナソニック ホールディングス(株)へ商号変更し、持株会社となりました。

(くらし事業)

パナソニック 分割準備(株) (同日付で、パナソニック(株)へ商号変更)

(オートモーティブ)

パナソニック オートモーティブシステムズ(株)

(コネクト)

パナソニック システムソリューションズ ジャパン(株)

※また、同日付で、同社を存続会社とし、パナソニック スマートファクトリーソリューションズ(株)及びパナソニック モバイルコミュニケーションズ(株)を消滅会社とする吸収合併を実施し、パナソニック コネクト(株)へ商号変更

(インダストリー)

パナソニック インダストリー(株)

(エネルギー)

パナソニック エナジー(株)

(その他)

パナソニック エンターテインメント&コミュニケーション(株)

パナソニック ハウジングソリューションズ(株)

パナソニック オペレーショナルエクセレンス(株)

パナソニック スポーツ(株)

当社は、IFRSに基づいて要約四半期連結財務諸表を作成しており、関係会社の範囲についても当該会計基準の定義に基づいて開示しています。「第2 事業の状況」においても同様です。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日（2023年2月10日）現在において判断したものです。

(1) 経営成績

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、ウクライナ情勢、原材料価格の高止まり、世界的なインフレや金利の上昇、一部で長引く部材不足などが影響し、景気に減速がみられました。また、先行きについては、グローバルでの地政学リスクやインフレ、金利の動向、さらに日本国内においては、急速な為替変動などが引き続き懸念材料となり、先の見通しにくい経営環境が続いています。

このような経営環境のもと、当社グループは、2022年4月1日より、持株会社と事業会社からなる新しいグループ体制に移行しました。2022年度は新中長期戦略の初年度として、各事業会社の自主責任経営を徹底し、競争力強化の取組みを進めています。

当第3四半期連結累計期間においては、当社グループは、パナソニック コネクト(株)が展開するサプライチェーンマネジメント事業について、その事業特性・市場環境を考慮し、資本市場の力を借りてグローバルでの成長を加速させるために株式上場を行うことが最適と判断し、株式上場に向けた準備を開始することを2022年5月に決定しました。また、同年7月にはパナソニック エナジー(株)が、車載電池工場の建設計画に関して、米国カンザス州より投資誘致補助金制度「Attracting Powerful Economic Expansion」の申請が承認され、同年10月に当社取締役会にて同工場の建設を決定しました。さらに同年11月には、パナソニック(株) 空質空調社が、スウェーデンの大手空質空調機器メーカーであるSystemair ABの業務用空調事業を買収することを発表しました。

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、6兆2,245億円（前年同期比15%増）となりました。半導体・部材不足による生産・販売への影響はありましたが、ヒートポンプ式温水暖房機（A2W）や、車載電池、自動車生産の回復を受けた車載機器などの販売増に加え、Blue Yonder Holding, Inc.（以下、「Blue Yonder」）の新規連結や為替換算の影響もあり、増収となりました。

営業利益は、2,342億円（前年同期比15%減）となりました。原材料価格高騰・固定費増加などの影響を増販益や価格改定などの取組みでカバーできず、前年の一時益の反動もあり、減益となりました。また、税引前利益は、2,554億円（前年同期比9%減）、親会社の所有者に帰属する四半期純利益は、1,629億円（前年同期比17%減）となりました。

(2) セグメントの経営成績

当第3四半期連結累計期間のセグメントの経営成績は、次のとおりです。

2022年4月1日付の再編に伴い、2021年度のセグメント情報については、2022年度の形態に合わせて組み替えて算出しています。

(a) くらし事業

売上高は、2兆6,175億円（前年同期比12%増）となりました。為替換算の影響に加え、欧州のA2W、北米のショーケース、海外の配線器具などが堅調に推移し、増収となりました。

営業利益は、原材料・物流費の高騰や部材調達課題はありましたが、増販益に加え、国内外の価格改定などの取組みでカバーし、前年同期に比べ増益の1,042億円（前年同期比12%増）となりました。

(b) オートモーティブ

売上高は、9,389億円（前年同期比22%増）となりました。自動車生産の回復に加え、為替換算の影響もあり、増収となりました。

営業利益は、半導体などの部材高騰や固定費増加はありましたが、増販益に加え、価格改定やコストダウンを進め、前年同期に比べ増益の0億円（前年同期は27億円の損失）となりました。

(c) コネクト

売上高は、8,065億円（前年同期比25%増）となりました。Blue Yonderの新規連結に加え、航空市場の回復によりアビオニクス事業が牽引し、増収となりました。

営業利益については、アビオニクス事業の増販益はありましたが、Blue Yonderの無形資産償却費の影響に加え、前年の一時益の反動により、前年同期に比べ減益の35億円（前年同期比92%減）となりました。

(d) インダストリー

売上高は、8,866億円（前年同期比6%増）となりました。ICT端末・車載分野や、中国市場向けが減販となりましたが、産業・EV用リレーの増販や為替換算の影響により、増収となりました。

営業利益については、為替の影響や合理化・価格改定の取組みはありましたが、原材料高騰影響や減販損により、前年同期に比べ減益の635億円（前年同期比3%減）となりました。

(e) エナジー

売上高は、7,172億円（前年同期比25%増）となりました。価格改定に加え旺盛なEV需要を受けた車載電池が増販、為替換算の影響もあり、増収となりました。

営業利益については、為替の影響はありましたが、原材料・物流費高騰、増産に伴う固定費増加などにより、前年同期に比べ減益の289億円（前年同期比47%減）となりました。

(f) その他（報告セグメントに含まれない事業）

その他の事業については、ハウジングなどが堅調に推移し、売上高は8,871億円（前年同期比5%増）、営業利益は前年同期に比べ増益の386億円（前年同期比29%増）となりました。

(3) 財政状態

当第3四半期連結会計期間末の連結総資産は、8兆66億円となり、前連結会計年度末に比べ170億円減少しました。これは、主に棚卸資産の増加や円安による為替変動の影響はありましたが、新体制への移行に伴う前連結会計年度末の一时的な借入の返済などによる現金及び現金同等物の減少等によるものです。負債は、4兆3,754億円となり、前連結会計年度末に比べ3,010億円減少しました。これは、主に一时的な借入の返済などによるものです。

親会社の所有者に帰属する持分は、3兆4,592億円となり、前連結会計年度末に比べ2,943億円増加しました。これは、主に親会社の所有者に帰属する四半期純利益の計上や、円安によるその他の資本の構成要素の増加によるものです。また、親会社の所有者に帰属する持分に非支配持分を加味した資本合計は、3兆6,312億円となりました。

(4) キャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の営業活動により増加したキャッシュ・フローは、3,137億円（前年同期は1,039億円の増加）となりました。前年同期差の主な要因は、棚卸資産の増加はありましたが、営業債権・営業債務増減の良化や、法人所得税の支払額の減少などによるものです。投資活動により減少したキャッシュ・フローは、2,158億円（前年同期は7,608億円の減少）となりました。前年同期差の主な要因は、前年同期にBlue Yonderの子会社化に係る支出があったことなどによるものです。この結果、フリーキャッシュ・フロー（営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローの合計）は、979億円（前年同期差7,548億円の良化）となりました。

また、財務活動により減少したキャッシュ・フローは、5,166億円（前年同期は899億円の減少）となりました。前年同期差の主な要因は、前年同期にBlue Yonder子会社化のためのハイブリッド社債発行があったことなどによるものです。

これらに為替変動の影響等を加味した結果、当第3四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物の残高は、8,201億円（前連結会計年度末差3,858億円減少）となりました。

(5) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定に重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費は、3,451億円（前年同期比11%増）です。当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

- (7) 設備投資
当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の設備投資は、1,804億円（前年同期比20%増）です。
- (8) 減価償却費（有形固定資産）
当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の減価償却費は、1,475億円（前年同期比11%増）です。
- (9) 従業員数
当第3四半期連結会計期間末の従業員数（就業人員数）は、235,714人（前連結会計年度末差4,484人減）です。
- (10) 株式会社の支配に関する基本方針
当第3四半期連結累計期間において、株式会社の支配に関する基本方針について重要な変更はありません。
- (11) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題
当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間における経営上の重要な契約等の決定又は締結はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,950,000,000
計	4,950,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年2月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,454,056,597	2,454,056,597	東京証券取引所(プライム市場) 名古屋証券取引所(プレミアム市場)	一単元の株式数は 100株であります。
計	2,454,056,597	2,454,056,597	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	—	2,454,056,597	—	259,274	—	533

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2022年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしています。

①【発行済株式】

2022年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 120,000,400	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	（相互保有株式） 普通株式 14,828,300	—	
完全議決権株式（その他）	普通株式 2,312,506,600	23,125,066	同上
単元未満株式	普通株式 6,721,297	—	一単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	2,454,056,597	—	—
総株主の議決権	—	23,125,066	—

- (注) 1 「完全議決権株式（その他）」欄及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ12,700株（議決権127個）及び89株含まれています。
- 2 「単元未満株式」欄の普通株式には自己保有株式及び相互保有株式が次のとおり含まれています。
- 自己保有株式 パナソニック ホールディングス株式会社（46株）
相互保有株式 株式会社パナソニック共済会（7株）、旭鍍金工業株式会社（71株）、
エーシーテクノサンヨー株式会社（75株）

②【自己株式等】

2022年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
（自己保有株式） パナソニック ホールディングス株式会社	大阪府門真市大字門真1006番地	120,000,400	—	120,000,400	4.88
（相互保有株式） 株式会社パナソニック共済会	大阪府門真市大字門真1006番地	14,798,800	—	14,798,800	0.60
旭鍍金工業株式会社	大阪市旭区新森四丁目5番16号	23,400	—	23,400	0.00
エーシーテクノサンヨー株式会社	さいたま市北区日進町三丁目597番地1	5,100	—	5,100	0.00
山陰パナソニック株式会社	島根県出雲市渡橋町416番地	1,000	—	1,000	0.00
相互保有株式 計	—	14,828,300	—	14,828,300	0.60
計	—	134,828,700	—	134,828,700	5.49

- (注) 当第3四半期会計期間末日現在の自己保有株式数（単元未満株式を除く）は、119,958,300株となっています。「発行済株式総数に対する所有株式数の割合」は4.88%です。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、四半期連結財務諸表規則第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下、「IAS第34号」）に準拠して作成しています。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）の要約四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けています。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前連結会計年度末 (2022年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間末 (2022年12月31日)
資産			
流動資産			
現金及び現金同等物		1,205,873	820,097
営業債権及び契約資産		1,324,618	1,290,405
その他の金融資産		210,633	148,471
棚卸資産		1,132,664	1,406,124
その他の流動資産		157,409	220,294
流動資産合計		4,031,197	3,885,391
非流動資産			
持分法で会計処理されている投資		403,201	397,543
その他の金融資産		213,024	239,547
有形固定資産		1,115,346	1,127,182
使用権資産		257,706	236,662
のれん及び無形資産		1,680,027	1,780,995
繰延税金資産		219,791	220,307
その他の非流動資産		103,291	118,986
非流動資産合計		3,992,386	4,121,222
資産合計		8,023,583	8,006,613

(単位：百万円)

	注記 番号	前連結会計年度末 (2022年3月31日)	当第3四半期 連結会計期間末 (2022年12月31日)
負債			
流動負債			
短期負債及び一年以内返済長期負債		432,897	225,866
リース負債		60,515	60,300
営業債務		1,163,578	1,263,813
未払金及び未払費用		500,601	441,809
その他の金融負債		160,534	161,865
未払法人所得税		45,123	80,945
引当金		137,032	127,100
契約負債		174,325	169,822
その他の流動負債		390,859	429,829
流動負債合計		3,065,464	2,961,349
非流動負債			
長期負債	8	1,197,706	1,048,741
リース負債		206,166	187,725
その他の金融負債		30,412	27,779
退職給付に係る負債		68,855	50,316
引当金		8,804	7,672
繰延税金負債		81,983	71,776
契約負債		12,771	13,574
その他の非流動負債		4,251	6,457
非流動負債合計		1,610,948	1,414,040
負債合計		4,676,412	4,375,389
資本			
親会社の所有者に帰属する持分			
資本金		259,168	259,274
資本剰余金		525,554	516,409
利益剰余金	2	2,387,283	2,489,838
その他の資本の構成要素	2,4	202,227	402,942
自己株式		△209,270	△209,225
親会社の所有者に帰属する持分合計	5	3,164,962	3,459,238
非支配持分		182,209	171,986
資本合計		3,347,171	3,631,224
負債及び資本合計		8,023,583	8,006,613

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

【要約四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	7	5,423,356	6,224,521
売上原価		△3,886,716	△4,567,173
売上総利益		1,536,640	1,657,348
販売費及び一般管理費		△1,249,349	△1,425,511
持分法による投資損益		△11,714	△3,141
その他の損益	8	△1,426	5,524
営業利益		274,151	234,220
金融収益		19,721	37,223
金融費用		△14,496	△15,996
税引前利益		279,376	255,447
法人所得税費用		△75,188	△82,872
四半期純利益		204,188	172,575
四半期純利益の帰属			
親会社の所有者		195,634	162,870
非支配持分		8,554	9,705
1株当たり四半期純利益(親会社の所有者に帰属)	5		
基本的1株当たり四半期純利益(円)		83.83	69.78
希薄化後1株当たり四半期純利益(円)		83.80	69.76

【要約四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
		(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益		204,188	172,575
その他の包括利益-税効果調整後			
純損益に振り替えられることのない項目			
確定給付制度の再測定		1,692	11,718
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産		△13,314	△1,428
純損益に振り替えられることのない項目の合計		△11,622	10,290
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		146,269	197,443
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動		△4,181	△9,823
純損益に振り替えられる可能性のある項目の合計		142,088	187,620
その他の包括利益合計		130,466	197,910
四半期包括利益合計		334,654	370,485
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		319,291	360,401
非支配持分		15,363	10,084

【第3四半期連結会計期間】
【要約四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
売上高	7	1,889,802	2,160,592
売上原価		△1,363,127	△1,591,699
売上総利益		526,675	568,893
販売費及び一般管理費		△439,196	△482,929
持分法による投資損益		△1,287	△856
その他の損益	8	△13,243	△647
営業利益		72,949	84,461
金融収益		5,969	10,208
金融費用		△5,304	△5,842
税引前利益		73,614	88,827
法人所得税費用		△30,538	△32,239
四半期純利益		43,076	56,588
四半期純利益の帰属			
親会社の所有者		42,591	55,533
非支配持分		485	1,055
1株当たり四半期純利益(親会社の所有者に帰属)	5		
基本的1株当たり四半期純利益(円)		18.25	23.79
希薄化後1株当たり四半期純利益(円)		18.24	23.78

【要約四半期連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結会計期間	当第3四半期連結会計期間
		(自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	(自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益		43,076	56,588
その他の包括利益-税効果調整後			
純損益に振り替えられることのない項目			
確定給付制度の再測定		642	△546
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産		△7,025	2,993
純損益に振り替えられることのない項目の合計		△6,383	2,447
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		98,243	△308,240
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の 純変動		△1,306	1,870
純損益に振り替えられる可能性のある項目の合計		96,937	△306,370
その他の包括利益 (△は損失) 合計		90,554	△303,923
四半期包括利益 (△は損失) 合計		133,630	△247,335
四半期包括利益の帰属			
親会社の所有者		128,129	△241,240
非支配持分		5,501	△6,095

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

(単位：百万円)

	注記 番号	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素	自己株式	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配 持分	資本合計
2021年4月1日残高		258,981	529,157	2,154,023	△138,370	△209,757	2,594,034	174,468	2,768,502
四半期包括利益									
四半期純利益		—	—	195,634	—	—	195,634	8,554	204,188
確定給付制度の再測定		—	—	—	1,611	—	1,611	81	1,692
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産		—	—	—	△13,374	—	△13,374	60	△13,314
在外営業活動体の換算差額		—	—	—	139,531	—	139,531	6,738	146,269
キャッシュ・フロー・ヘッジの 公正価値の純変動		—	—	—	△4,111	—	△4,111	△70	△4,181
四半期包括利益合計		—	—	195,634	123,657	—	319,291	15,363	334,654
ヘッジ対象の 非金融資産への振替		—	—	—	1,900	—	1,900	—	1,900
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		—	—	6,090	△6,090	—	—	—	—
配当金	4	—	—	△58,339	—	—	△58,339	△12,075	△70,414
自己株式の取得		—	—	—	—	△36	△36	—	△36
自己株式の売却		—	△0	—	—	2	2	—	2
株式に基づく報酬取引		187	△277	—	—	352	262	—	262
非支配持分との取引等		—	△2,313	—	—	—	△2,313	△820	△3,133
2021年12月31日残高		259,168	526,567	2,297,408	△18,903	△209,439	2,854,801	176,936	3,031,737

当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

（単位：百万円）

	注記 番号	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	その他の 資本の 構成要素	自己株式	親会社の 所有者に 帰属する 持分合計	非支配 持分	資本合計
2022年4月1日残高		259,168	525,554	2,387,283	202,227	△209,270	3,164,962	182,209	3,347,171
超インフレによる影響額	2	—	—	△3,260	15,883	—	12,623	—	12,623
2022年4月1日残高 （調整後）		259,168	525,554	2,384,023	218,110	△209,270	3,177,585	182,209	3,359,794
四半期包括利益									
四半期純利益		—	—	162,870	—	—	162,870	9,705	172,575
確定給付制度の再測定		—	—	—	11,635	—	11,635	83	11,718
その他の包括利益を通じて 公正価値で測定する金融資産		—	—	—	△897	—	△897	△531	△1,428
在外営業活動体の換算差額		—	—	—	196,716	—	196,716	727	197,443
キャッシュ・フロー・ヘッジの 公正価値の純変動		—	—	—	△9,923	—	△9,923	100	△9,823
四半期包括利益合計		—	—	162,870	197,531	—	360,401	10,084	370,485
ヘッジ対象の 非金融資産への振替		—	—	—	265	—	265	—	265
その他の資本の構成要素 から利益剰余金への振替		—	—	12,964	△12,964	—	—	—	—
配当金	4	—	—	△70,019	—	—	△70,019	△15,567	△85,586
自己株式の取得		—	—	—	—	△45	△45	—	△45
自己株式の売却		—	△0	—	—	3	3	—	3
株式に基づく報酬取引		106	△35	—	—	87	158	—	158
非支配持分との取引等		—	△9,110	—	—	—	△9,110	△4,740	△13,850
2022年12月31日残高		259,274	516,409	2,489,838	402,942	△209,225	3,459,238	171,986	3,631,224

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
四半期純利益		204,188	172,575
減価償却費及び償却費		245,697	284,809
有形固定資産、使用権資産、のれん及び 無形資産の減損		2,382	814
法人所得税費用		75,188	82,872
営業債権及び契約資産の増減額 (△は増加)		△31,281	55,466
棚卸資産の増減額 (△は増加)		△210,000	△249,342
営業債務の増減額 (△は減少)		58,280	102,264
引当金の増減額 (△は減少)		△12,626	△10,717
契約負債の増減額 (△は減少)		1,593	△8,131
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)		△5,027	△3,139
その他 (純額)	8	△97,291	△34,399
小計		231,103	393,072
利息の受取額		9,317	15,550
配当金の受取額		1,839	3,589
利息の支払額		△14,057	△16,746
法人所得税の支払額		△124,268	△81,741
営業活動によるキャッシュ・フロー		103,934	313,724
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得		△167,454	△191,277
有形固定資産の売却		10,427	24,363
無形資産の取得		△45,996	△58,194
リース債権の回収		22,481	952
持分法投資及びその他の金融資産の取得		△31,230	△34,877
持分法投資及びその他の金融資産の売却及び償還		28,803	32,419
連結範囲の変更を伴う子会社の取得	9	△583,186	—
連結子会社又はその他の事業に対する支配の喪失		7,559	8,999
その他 (純額)		△2,255	1,816
投資活動によるキャッシュ・フロー		△760,851	△215,799

(単位：百万円)

	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入債務の増減額 (△は減少)	9	△155,974	△248,047
長期借入債務による調達額	8	400,721	1,442
長期借入債務の返済額		△202,887	△110,550
リース負債の返済額		△49,275	△54,720
親会社の所有者への配当金の支払額	4	△58,339	△70,019
非支配持分への配当金の支払額		△12,075	△15,567
自己株式の取得		△36	△45
自己株式の売却		2	3
非支配持分との取引		△3,243	△3,017
その他 (純額)		△8,777	△16,088
財務活動によるキャッシュ・フロー		△89,883	△516,608
現金及び現金同等物に係る換算差額		42,764	32,907
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		△704,036	△385,776
現金及び現金同等物の期首残高		1,593,224	1,205,873
売却目的で保有する資産への振替に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		557	—
現金及び現金同等物の四半期末残高		889,745	820,097

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

パナソニック ホールディングス㈱は日本に所在する企業です。当社（以下、原則として連結子会社を含む）は、総合エレクトロニクスメーカーとして関連する事業分野について、国内外のグループ各社との緊密な連携のもとに、開発・生産・販売・サービス活動を展開しています。

当社の主な事業内容及び主要な活動は、注記「3. セグメント情報」に記載しています。

2. 作成の基礎

(1) 要約四半期連結財務諸表がIAS第34号に準拠している旨

当社の要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件を満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しています。要約四半期連結財務諸表は年度の連結財務諸表で要求されている全ての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものです。

要約四半期連結財務諸表は2023年2月10日において、代表取締役 社長執行役員 楠見雄規及び代表取締役 副社長執行役員（グループCFO） 梅田博和により承認されています。

(2) 機能通貨及び表示通貨

要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円で表示しており、百万円未満を四捨五入しています。

(3) 重要な会計方針

要約四半期連結財務諸表において適用している重要な会計方針は、前連結会計年度において適用した会計方針と同一です。

なお、当連結会計年度の期首時点において、トルコ共和国の物価指数が3年間累積インフレ率100%超となったことを示したため、当社は、トルコ・リラを機能通貨とする子会社について、超インフレ経済下で事業活動を行っているとして判断しました。このため、IAS第29号「超インフレ経済下における財務報告」に従い、当連結会計年度の期首より、当該子会社の財務諸表について、会計上の調整を加えています。

IAS第29号は、超インフレ経済下にある子会社の財務諸表について、報告期間末日現在の測定単位に修正した上で、当社の連結財務諸表に含めることを要求しています。当該子会社は、取得原価で表示されている非貨幣性項目について、取得日を基準に累積インフレ率を用いて修正しています。非貨幣性項目のうち報告期間末日現在の測定単位で表示されているものと貨幣性項目については、修正していません。正味貨幣持高にかかるインフレの影響は、要約四半期連結損益計算書において金融収益に含めて表示しています。また、当該子会社の修正後の財務諸表は、四半期決算日の為替レートにより換算し、要約四半期連結財務諸表に反映しています。

IAS第29号に従い前連結会計年度末までの累積的な影響を反映した結果、当連結会計年度の期首の利益剰余金が3,260百万円減少し、その他の資本の構成要素が15,883百万円増加しています。

(4) 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

当社は、要約四半期連結財務諸表を作成するために、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を用いています。実際の業績は、会計上の見積り及びその基礎となる仮定とは異なる場合があります。

見積り及びその基礎となる仮定は、継続して見直され、会計上の見積りの見直しによる影響は、当該見直しを行った連結会計期間及び将来の連結会計期間において認識されます。

要約四半期連結財務諸表の金額に重要な影響を与える見積り及び判断は、前連結会計年度と同様です。

3. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち独立した財務情報が入手可能で、最高経営意思決定者が、経営資源の配分の決定及び業績の検討のため、定期的に評価を行う対象となっているものであり、「くらし事業」「オートモーティブ」「コネクト」「インダストリー」「エナジー」の5つに区分して開示しています。

「くらし事業」は、冷蔵庫、電子レンジ、炊飯器、洗濯機、掃除機、美・理容器具、家庭用空調機器、業務用空調機器、ヒートポンプ温水機器、換気・送風機器、空気清浄機、ショーケース、業務用冷蔵庫、照明器具、ランプ、配線器具、太陽光発電システム、燃料電池、コンプレッサー、自転車、介護関連等の開発・製造・販売を行っています。「オートモーティブ」は、車載インフォテインメントシステム、ヘッドアップディスプレイ、車載スピーカーシステム、車載スイッチ、先進運転支援システム(ADAS)、自動車用ミラー等の開発・製造・販売を行っています。

「コネクト」は、航空機内エンターテインメントシステム・通信サービス、電子部品実装システム、溶接機、プロジェクター、業務用カメラシステム、パソコン・タブレット、サプライチェーンマネジメントソフトウェア(SCM)等の開発・製造・販売を行っています。「インダストリー」は、制御機器、モーター、FAデバイス、電子部品、電子材料等の開発・製造・販売を行っています。「エナジー」は、車載用円筒形リチウムイオン電池、一次電池(乾電池、マイクロ電池)、小型二次電池(単品セルとそのシステム商品)等の開発・製造・販売を行っています。

「その他」は、報告セグメントに含まれない事業セグメントやその他の事業活動であり、テレビ、デジタルカメラ、ビデオ機器、オーディオ機器、固定電話、水まわり設備、内装建材、外装建材、原材料の販売等が含まれていません。

なお、2022年4月1日に、「くらし事業」における一部の販売機能を各報告セグメントへ移管したことにより、従来「くらし事業」において計上していた当該売上高を、移管先である各報告セグメント及び「その他」で計上しています。また、セグメント業績は、前連結会計年度まで、販売価格に関する管理会計上の調整を行った売上高を用いて管理していましたが、当連結会計年度より、当該調整は行っていません。

これらの変更に伴い、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間のセグメント情報については、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の形態に合わせて組み替えて表示しています。

(2) セグメント情報

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間におけるセグメント情報は、次のとおりです。

①前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	消去・調整	連結計
	くらし事業	オートモーティブ	コネクト	インダストリー	エナジー			
売上高								
外部顧客に対するもの	2,168,544	762,957	568,007	756,386	526,707	640,755	—	5,423,356
セグメント間取引	176,280	7,432	77,035	81,859	47,806	204,704	△595,116	—
計	2,344,824	770,389	645,042	838,245	574,513	845,459	△595,116	5,423,356
利益（△は損失）	92,844	△2,725	43,113	65,292	54,843	29,953	△9,169	274,151

②当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	消去・調整	連結計
	くらし事業	オートモーティブ	コネクト	インダストリー	エナジー			
売上高								
外部顧客に対するもの	2,431,385	927,974	752,300	769,598	669,739	673,525	—	6,224,521
セグメント間取引	186,133	10,927	54,232	116,980	47,453	213,561	△629,286	—
計	2,617,518	938,901	806,532	886,578	717,192	887,086	△629,286	6,224,521
利益（△は損失）	104,220	36	3,464	63,489	28,902	38,614	△4,505	234,220

報告セグメントの会計方針は、管理会計上の調整事項を除き、注記「2. (3) 重要な会計方針」で記載している当社の会計方針と同一です。

セグメント間における取引は、独立企業間価格を基礎として行われています。

報告セグメントの利益は、営業利益をベースとした数値です。

「消去・調整」欄には、セグメント間の内部取引消去や、セグメントに帰属しない損益及び連結会計上の調整が含まれています。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の利益に関する調整には、本社部門等の損益が含まれています。また、連結会計上の調整として、セグメントに帰属しない持分法による投資損益等が含まれています。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間におけるセグメント情報は、次のとおりです。

①前第3四半期連結会計期間（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	消去・調整	連結計
	くらし事業	オートモーティブ	コネクト	インダストリー	エナジー			
売上高								
外部顧客に対するもの	759,382	270,839	203,953	252,160	180,345	223,123	—	1,889,802
セグメント間取引	60,890	2,678	17,858	29,972	16,613	70,854	△198,865	—
計	820,272	273,517	221,811	282,132	196,958	293,977	△198,865	1,889,802
利益（△は損失）	33,481	1,837	△9,424	19,260	17,447	7,552	2,796	72,949

②当第3四半期連結会計期間（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	消去・調整	連結計
	くらし事業	オートモーティブ	コネクト	インダストリー	エナジー			
売上高								
外部顧客に対するもの	843,742	342,604	269,243	242,582	230,437	231,984	—	2,160,592
セグメント間取引	60,305	3,682	19,437	47,987	16,959	75,237	△223,607	—
計	904,047	346,286	288,680	290,569	247,396	307,221	△223,607	2,160,592
利益（△は損失）	30,523	12,529	13,827	15,028	232	12,155	167	84,461

報告セグメントの会計方針は、管理会計上の調整事項を除き、注記「2.(3)重要な会計方針」で記載している当社の会計方針と同一です。

セグメント間における取引は、独立企業間価格を基礎として行われています。

報告セグメントの利益は、営業利益をベースとした数値です。

「消去・調整」欄には、セグメント間の内部取引消去や、セグメントに帰属しない損益及び連結会計上の調整が含まれています。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間の利益に関する調整には、本社部門等の損益が含まれています。また、連結会計上の調整として、セグメントに帰属しない持分法による投資損益等が含まれています。

4. 資本

(1) その他の資本の構成要素

その他の資本の構成要素の内訳は、次のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2022年12月31日)
確定給付制度の再測定 ※	—	—
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する 金融資産	30,659	28,433
在外営業活動体の換算差額	171,240	383,839
キャッシュ・フロー・ヘッジの公正価値の純変動	328	△9,330
合計	202,227	402,942

※当第3四半期連結累計期間において、確定給付制度を再測定した結果、その他の資本の構成要素が11,635百万円(税効果考慮後)増加しており、同額をその他の資本の構成要素から利益剰余金へ直接振り替えています。

(2) 配当金

①前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

配当金の支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月10日 取締役会	普通株式	23,333	利益剰余金	10.0	2021年3月31日	2021年6月4日
2021年10月28日 取締役会	普通株式	35,006	利益剰余金	15.0	2021年9月30日	2021年11月30日

②当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

配当金の支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年5月11日 取締役会	普通株式	35,008	利益剰余金	15.0	2022年3月31日	2022年6月2日
2022年10月31日 取締役会	普通株式	35,011	利益剰余金	15.0	2022年9月30日	2022年11月30日

5. 1株当たり情報

1株当たり親会社所有者帰属持分は、次のとおりです。

	前連結会計年度末 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2022年12月31日)
1株当たり親会社所有者帰属持分	1,356円08銭	1,482円04銭

基本的1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期純利益及び希薄化後1株当たり親会社の所有者に帰属する四半期純利益の調整計算は、次のとおりです。

(1) 前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
親会社の所有者に帰属する四半期純利益	195,634百万円	162,870百万円
四半期純利益調整額	△9百万円	△6百万円
基本的1株当たり四半期純利益の計算に使用する 四半期純利益	195,625百万円	162,864百万円
四半期純利益調整額	9百万円	6百万円
希薄化後1株当たり四半期純利益の計算に使用する 四半期純利益	195,634百万円	162,870百万円
期中平均普通株式数	2,333,464,380株	2,333,915,866株
希薄化効果		
ストックオプションによる普通株式増加数	982,279株	754,485株
譲渡制限付株式報酬制度による普通株式増加数	109,820株	83,040株
希薄化後の期中平均普通株式数	2,334,556,479株	2,334,753,391株
基本的1株当たり 親会社の所有者に帰属する四半期純利益	83円83銭	69円78銭
希薄化後1株当たり 親会社の所有者に帰属する四半期純利益	83円80銭	69円76銭

(2) 前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間

	前第3四半期連結会計期間 (自 2021年10月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2022年10月1日 至 2022年12月31日)
親会社の所有者に帰属する四半期純利益	42,591百万円	55,533百万円
四半期純利益調整額	△3百万円	△3百万円
基本的1株当たり四半期純利益の計算に使用する 四半期純利益	42,588百万円	55,530百万円
四半期純利益調整額	3百万円	3百万円
希薄化後1株当たり四半期純利益の計算に使用する 四半期純利益	42,591百万円	55,533百万円
期中平均普通株式数	2,333,623,938株	2,333,972,122株
希薄化効果		
ストックオプションによる普通株式増加数	899,508株	728,033株
譲渡制限付株式報酬制度による普通株式増加数	148,850株	110,850株
希薄化後の期中平均普通株式数	2,334,672,296株	2,334,811,005株
基本的1株当たり 親会社の所有者に帰属する四半期純利益	18円25銭	23円79銭
希薄化後1株当たり 親会社の所有者に帰属する四半期純利益	18円24銭	23円78銭

6. 金融商品の公正価値

(1) 公正価値と帳簿価額の比較

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2022年3月31日)		当第3四半期連結会計期間末 (2022年12月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
長期負債（一年以内返済長期負債を含む）	1,309,870	1,306,985	1,202,857	1,149,815

公正価値は、市場価格又は将来のキャッシュ・フローを、前連結会計年度末又は当第3四半期連結会計期間末における観察可能な割引金利を使用して計算した現在価値に基づいて算定しており、すべてレベル2（「(2) 公正価値測定の高階層キー」参照）に分類しています。

上記以外の償却原価で測定する金融資産及び金融負債の公正価値は、帳簿価額と近似しています。

(2) 公正価値測定の高階層キー

IFRS第13号「公正価値測定」では、公正価値を、その測定のために使われるインプット情報における外部からの観察可能性に応じて、次の3つのレベルに区分することが規定されています。

- ・レベル1：活発な市場における公表価格により測定された公正価値
- ・レベル2：レベル1以外の、観察可能なインプットを直接又は間接的に使用して算出された公正価値
- ・レベル3：観察可能な市場データに基づかないインプットを含む、評価技法から算出された公正価値

公正価値の測定に使用される公正価値測定の高階層キーのレベルは、公正価値の測定の重要なインプットのうち、最も低いレベルにより決定しています。

公正価値で測定される金融商品の内訳は、次のとおりです。

①前連結会計年度末（2022年3月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
デリバティブ資産				
為替予約	—	20,055	—	20,055
通貨金利スワップ	—	42,009	—	42,009
商品先物	26,495	8,232	—	34,727
小計	26,495	70,296	—	96,791
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式	55,282	—	100,473	155,755
その他	—	281	—	281
小計	55,282	281	100,473	156,036
合計	81,777	70,577	100,473	252,827
金融負債：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債				
為替予約	—	9,115	—	9,115
通貨スワップ	—	22	—	22
通貨金利スワップ	—	1,158	—	1,158
商品先物	13,720	21,962	—	35,682
合計	13,720	32,257	—	45,977

②当第3四半期連結会計期間末（2022年12月31日）

（単位：百万円）

	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金融資産：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融資産				
デリバティブ資産				
為替予約	—	9,741	—	9,741
通貨金利スワップ	—	36,996	—	36,996
商品先物	15,390	4,441	—	19,831
小計	15,390	51,178	—	66,568
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産				
株式	59,668	—	110,024	169,692
その他	—	283	—	283
小計	59,668	283	110,024	169,975
合計	75,058	51,461	110,024	236,543
金融負債：				
純損益を通じて公正価値で測定する金融負債				
デリバティブ負債				
為替予約	—	12,302	—	12,302
通貨スワップ	—	13	—	13
通貨金利スワップ	—	3,111	—	3,111
商品先物	18,232	7,088	—	25,320
合計	18,232	22,514	—	40,746

レベル1に区分した市場性のある株式及び商品先物等は、十分な取引量と頻繁な取引がある活発な市場における調整不要な市場価格で評価しています。

レベル2に区分したデリバティブに含まれている為替予約、通貨スワップ、通貨金利スワップ、商品先物等は、評価技法を用いて評価され、為替レート、市場金利及び商品先物市場価格などの観察可能な市場インプットを使用した価格モデルに基づき定期的に検証しています。

レベル3に区分した株式は非上場株式であり、当社の定める最も適切かつ関連性の高い入手可能なデータを利用するための方針と手続に基づき、当該投資先の将来の収益性の見通し、純資産価額や当該投資先が保有する主要な資産等の定量的な情報を総合的に考慮した適切な評価方法により公正価値を測定しています。当該評価の合理性については、会計担当部門が様々な手法を用いて検証しており、部門管理者の承認を受けています。なお、検証の具体的な手法には、外部評価機関の利用が含まれています。

レベル3に区分した金融商品について、観察可能でないインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合に重要な公正価値の増減は見込まれていません。

レベル間の振替は、振替を生じさせた事象又は状況の変化が生じた日に認識しています。当第3四半期連結累計期間において、その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産として保有する株式の一部について、証券取引所に上場したことに伴い公正価値測定の高階層キーの区分をレベル3からレベル1に振り替えています。

当第3四半期連結累計期間における、公正価値測定の高階層キーのレベル3に分類された金融商品の主な変動要因は、当社の持分法適用会社に対する持分割合が減少したことによる関連会社株式からその他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融商品への振替に伴う増加と、上述の保有株式の上場に伴うレベル1への振替及び売却に伴う減少です。

7. 収益

収益の分解

当社は、顧客との契約から生じる収益を、その性質を適切に反映する製品別及び地域別（顧客の所在地別）に分解しています。製品別及び地域別の収益は、報告セグメント毎に分解しています。

くらし事業の製品は、「くらしアプライアンス」「空質空調」「コールドチェーンソリューション」「エレクトリックワークス」「その他」に区分しています。「くらしアプライアンス」には、冷蔵庫、電子レンジ、炊飯器、洗濯機、掃除機、美・理容器具等が含まれています。「空質空調」には、家庭用空調機器、業務用空調機器、ヒートポンプ温水機器、換気・送風機器、空気清浄機等が含まれています。「コールドチェーンソリューション」には、ショーケース、業務用冷蔵庫等が含まれています。「エレクトリックワークス」には、照明器具、ランプ、配線器具、太陽光発電システム、燃料電池等が含まれています。「その他」には、コンプレッサー、自転車、介護関連等が含まれています。

オートモーティブの製品は、「車載コックピットシステム」「車載エレクトロニクス」「その他」に区分しています。「車載コックピットシステム」には、車載インフォテインメントシステム、「車載エレクトロニクス」には、ヘッドアップディスプレイ、車載スピーカーシステム、車載スイッチ、先進運転支援システム(ADAS)、自動車用ミラー等が含まれています。「その他」には、他社買入商品が含まれています。

コネクトの製品は、「ハードウェアソリューション」「SCMソリューション」に区分しています。「ハードウェアソリューション」はコア事業の製品であり、航空機内エンターテインメントシステム・通信サービス、電子部品実装システム、溶接機、プロジェクター、業務用カメラシステム、パソコン・タブレット等が含まれています。「SCMソリューション」は成長事業の製品であり、現場ソリューションカンパニーのソリューション事業、SCMソフトウェア等が含まれています。

インダストリーの製品は、「制御機器」「FAソリューション」「電子デバイス」「電子材料」「その他」に区分しています。「制御機器」には、リレー・電源等が含まれています。「FAソリューション」には、産業用モーター、FAデバイス等が含まれています。「電子デバイス」には、コンデンサ等が含まれています。「電子材料」には、多層材料、半導体デバイス材料等が含まれています。「その他」には、液晶パネル等が含まれています。

エナジーの製品は、「車載」「産業・民生」に区分しています。「車載」には車載用円筒形リチウムイオン電池、「産業・民生」には一次電池（乾電池、マイクロ電池）、小型二次電池（単品セルとそのシステム商品）等が含まれています。

その他は、エンターテインメント&コミュニケーション、ハウジング及び原材料の販売等が含まれています。エンターテインメント&コミュニケーションには、テレビ、デジタルカメラ、ビデオ機器、オーディオ機器、固定電話等、ハウジングには、水まわり設備、内装建材、外装建材等が含まれています。

これらの分解した収益は、次のとおりです。

なお、注記「3. セグメント情報」に記載のとおり、2022年4月1日に、「くらし事業」における一部の販売機能を各報告セグメントへ移管したことにより、従来「くらし事業」において計上していた当該売上高を、移管先である各報告セグメント及び「その他」で計上しています。また、セグメント業績は、前連結会計年度まで、販売価格に関する管理会計上の調整を行った売上高を用いて管理していましたが、当連結会計年度より、当該調整は行っていません。

更に、収益の分解における各報告セグメントの製品区分の見直しを行い、コネクト及びインダストリーについては製品区分を変更しています。

これらの変更に伴い、前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の収益の分解については、当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の形態に合わせて組み替えて表示しています。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間

① 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

（単位：百万円）

報告セグメント	製品別	売上高	地域別	売上高
くらし事業	くらしアプライアンス	666,770	日本	1,057,785
	空質空調	439,041	米州	198,625
	コールドチェーンソリューション	191,499	欧州	116,568
	エレクトリックワークス	414,472	アジア・中国他	650,745
	その他	311,941		
	小計（注1）	2,023,723	小計（注1）	2,023,723
オートモーティブ	車載コックピットシステム	317,657	日本	279,719
	車載エレクトロニクス	303,084	米州	180,152
	その他	75,189	欧州	126,122
			アジア・中国他	109,937
	小計（注1）	695,930	小計（注1）	695,930
コネクト	ハードウェアソリューション	481,025	日本	195,971
	SCMソリューション	139,685	米州	163,573
			欧州	81,248
			アジア・中国他	179,918
小計（注1）	620,710	小計（注1）	620,710	
インダストリー	制御機器	181,313	日本	201,863
	FAソリューション	57,022	米州	44,038
	電子デバイス	282,562	欧州	88,151
	電子材料	107,823	アジア・中国他	393,039
	その他	98,371		
	小計（注1）	727,091	小計（注1）	727,091
エネルギー	車載	333,635	日本	58,021
	産業・民生	252,601	米州	391,434
			欧州	20,680
			アジア・中国他	116,101
小計（注1）	586,236	小計（注1）	586,236	
	その他（注2）	769,666		
	合計	5,423,356		

（注1）収益の分解の「小計」と、注記「3. (2)セグメント情報」の「外部顧客に対する売上高」との差額は、各セグメントの製品を他のセグメントで販売した売上高に関する調整等です。

（注2）「その他」には、エンターテインメント&コミュニケーションの製品売上高272,827百万円及びハウジングの製品売上高274,673百万円が含まれています。

② 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

（単位：百万円）

報告セグメント	製品別	売上高	地域別	売上高
くらし事業	くらしアプライアンス	739,363	日本	1,088,843
	空質空調	518,804	米州	269,786
	コールドチェーンソリューション	251,757	欧州	164,445
	エレクトリックワークス	475,146	アジア・中国他	776,701
	その他	314,705		
	小計（注1）	2,299,775	小計（注1）	2,299,775
オートモーティブ	車載コックピットシステム	354,261	日本	281,703
	車載エレクトロニクス	379,316	米州	237,879
	その他	105,743	欧州	166,878
			アジア・中国他	152,860
	小計（注1）	839,320	小計（注1）	839,320
コネクト	ハードウェアソリューション	548,187	日本	189,926
	SCMソリューション	233,268	米州	304,622
			欧州	115,610
			アジア・中国他	171,297
	小計（注1）	781,455	小計（注1）	781,455
インダストリー	制御機器	233,794	日本	193,457
	FAソリューション	61,917	米州	62,462
	電子デバイス	288,064	欧州	123,175
	電子材料	109,708	アジア・中国他	393,082
	その他	78,693		
	小計（注1）	772,176	小計（注1）	772,176
エネルギー	車載	462,871	日本	62,497
	産業・民生	267,275	米州	534,494
			欧州	20,495
			アジア・中国他	112,660
	小計（注1）	730,146	小計（注1）	730,146
	その他（注2）	801,649		
	合計	6,224,521		

（注1）収益の分解の「小計」と、注記「3. (2)セグメント情報」の「外部顧客に対する売上高」との差額は、各セグメントの製品を他のセグメントで販売した売上高に関する調整等です。

（注2）「その他」には、エンターテインメント&コミュニケーションの製品売上高256,586百万円及びハウジングの製品売上高293,926百万円が含まれています。

前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間

① 前第3四半期連結会計期間（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）

（単位：百万円）

報告セグメント	製品別	売上高	地域別	売上高
くらし事業	くらしアプライアンス	248,249	日本	365,819
	空質空調	139,079	米州	69,317
	コールドチェーンソリューション	60,506	欧州	41,132
	エレクトリックワークス	152,163	アジア・中国他	230,071
	その他	106,342		
	小計（注1）	706,339	小計（注1）	706,339
オートモーティブ	車載コックピットシステム	111,862	日本	95,137
	車載エレクトロニクス	106,811	米州	59,188
	その他	25,011	欧州	44,150
			アジア・中国他	45,209
小計（注1）	243,684	小計（注1）	243,684	
コネクト	ハードウェアソリューション	151,966	日本	54,832
	SCMソリューション	62,799	米州	67,927
			欧州	31,717
			アジア・中国他	60,289
小計（注1）	214,765	小計（注1）	214,765	
インダストリー	制御機器	59,824	日本	70,265
	FAソリューション	17,997	米州	14,565
	電子デバイス	95,674	欧州	32,439
	電子材料	36,461	アジア・中国他	128,799
	その他	36,112		
	小計（注1）	246,068	小計（注1）	246,068
エネルギー	車載	113,752	日本	22,348
	産業・民生	87,830	米州	134,623
			欧州	5,638
			アジア・中国他	38,973
小計（注1）	201,582	小計（注1）	201,582	
	その他（注2）	277,364		
	合計	1,889,802		

（注1）収益の分解の「小計」と、注記「3. (2)セグメント情報」の「外部顧客に対する売上高」との差額は、各セグメントの製品を他のセグメントで販売した売上高に関する調整等です。

（注2）「その他」には、エンターテインメント&コミュニケーションの製品売上高100,068百万円及びハウジングの製品売上高99,303百万円が含まれています。

② 当第3四半期連結会計期間（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）

（単位：百万円）

報告セグメント	製品別	売上高	地域別	売上高
暮らし事業	くらしアプライアンス	261,672	日本	380,346
	空質空調	156,176	米州	96,429
	コールドチェーンソリューション	88,401	欧州	62,514
	エレクトリックワークス	172,747	アジア・中国他	245,552
	その他	105,845		
	小計（注1）	784,841	小計（注1）	784,841
オートモーティブ	車載コックピットシステム	131,257	日本	104,137
	車載エレクトロニクス	138,431	米州	81,728
	その他	36,857	欧州	66,687
			アジア・中国他	53,993
	小計（注1）	306,545	小計（注1）	306,545
コネクト	ハードウェアソリューション	194,515	日本	75,398
	SCMソリューション	87,383	米州	119,173
			欧州	40,137
			アジア・中国他	47,190
	小計（注1）	281,898	小計（注1）	281,898
インダストリー	制御機器	80,795	日本	68,752
	FAソリューション	18,931	米州	20,270
	電子デバイス	91,868	欧州	46,254
	電子材料	34,819	アジア・中国他	115,039
	その他	23,902		
	小計（注1）	250,315	小計（注1）	250,315
エネルギー	車載	169,621	日本	23,465
	産業・民生	83,984	米州	190,633
			欧州	7,222
			アジア・中国他	32,285
	小計（注1）	253,605	小計（注1）	253,605
	その他（注2）	283,388		
	合計	2,160,592		

（注1）収益の分解の「小計」と、注記「3. (2)セグメント情報」の「外部顧客に対する売上高」との差額は、各セグメントの製品を他のセグメントで販売した売上高に関する調整等です。

（注2）「その他」には、エンターテインメント&コミュニケーションの製品売上高99,608百万円及びハウジングの製品売上高102,825百万円が含まれています。

8. 補足説明

(1) その他の損益

前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間における「その他の損益」には、早期退職一時金がそれぞれ34,978百万円及び3,990百万円含まれています。

前第3四半期連結累計期間における「その他の損益」には、Blue Yonder Holding, Inc.（以下、「Blue Yonder」）の完全子会社化（注記「9. 企業結合」参照）に伴い、当社が既に保有する20%の持分を支配獲得時の公正価値に再測定したことによる評価益が58,260百万円含まれております。なお、当該利益は、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書の営業活動によるキャッシュ・フローにおける「その他（純額）」に含めて表示しています。

当第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結会計期間の「その他の損益」の内訳項目に、個々に重要性がないため、開示を省略しています。

(2) 社債の発行

当社は、前第3四半期連結累計期間において、Blue Yonderの完全子会社化（注記「9. 企業結合」参照）を目的とした株式追加取得のファイナンスプランの一環として、総額400,000百万円の公募ハイブリッド社債（劣後特約付社債）を発行しました。

(3) 有形固定資産の取得

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における「有形固定資産」の取得による帳簿価額の増加額は、それぞれ150,061百万円及び180,400百万円です。

(4) 有形固定資産の売却又は処分

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における「有形固定資産」の売却又は処分による帳簿価額の減少額は、それぞれ30,264百万円及び23,273百万円であり、貸手としてのファイナンス・リースによる減少額が含まれています。

9. 企業結合

(1) 前第3四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年12月31日）

米国ソフトウェア会社（Blue Yonder）の完全子会社化

当社及び当社の米国子会社は、2021年9月16日に、当社が発行済株式総数の20%を保有する米国の持分法適用会社であるBlue Yonder Holding, Inc.（以下、「Blue Yonder」）の80%の株式を追加取得し、同社及び傘下子会社の支配を獲得しました。なお、当該株式取得は当社が本件取引のために設立した特別目的子会社をBlue Yonderと合併させる手法で行いました。

本件取引により、当社が長年培ってきたモノづくりのノウハウや、エッジデバイス、IoT、センシング技術等に、Blue YonderのAI（人工知能）・ML（機械学習）が強みであるソフトウェアプラットフォームを組み合わせることで、新しい価値を創造し、両社で「オートノマス（自律的な）サプライチェーンTM」を加速、お客様の経営課題を解決するとともに、エネルギーの削減、資源の有効活用を通じて、地球環境の保全やサステナブルな社会の実現を目指します。

当社が既に保有する20%の資本持分の支配獲得日における公正価値及び追加取得した80%の対価（現金）の公正価値（暫定的金額の調整後）は、以下のとおりです。また、既存持分を公正価値に再測定した結果として認識した評価益は58,260百万円、株式の取得に関連して発生した費用は3,140百万円であり、いずれも要約四半期連結損益計算書の「その他の損益」に計上しており、「コネク」セグメントに帰属しています。なお、取得対価に係る為替リスクをヘッジするために締結した為替予約の影響は重要ではありません。

	(単位：百万円)
既に保有する20%の持分の公正価値	142,933
追加取得した80%の対価（現金）の公正価値	622,831
合計	765,764

支配獲得日において取得した資産及び引き継いだ負債の金額（暫定的金額の調整後）は、以下のとおりです。

	(単位：百万円)
現金及び現金同等物	37,845
営業債権及び契約資産	24,365
のれん	607,030
無形資産	359,959
その他の取得資産	18,623
取得資産計	1,047,822
営業債務	2,628
短期負債	192,620
契約負債	16,740
繰延税金負債	40,322
その他の引継負債	29,748
引継負債計	282,058
取得純資産計	765,764

「のれん」の内容は、主に期待される将来の収益力に関連して発生したものです。認識された「のれん」は、すべて「コネク」セグメントに帰属し、税務上損金算入できません。「無形資産」には顧客、技術等が含まれています。また「短期負債」は企業結合後、前第2四半期連結会計期間において全額返済しています。

前第3四半期連結累計期間及び前第3四半期連結会計期間の要約四半期連結損益計算書に含まれているBlue Yonderの売上高及び税引前利益は、重要ではありません。

なお、上記企業結合に係るプロ・フォーマ情報は、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結損益計算書に含まれていない金額に重要性がないため開示していません。

(2) 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

重要な企業結合はありません。

10. 偶発負債

訴訟等

当社及び一部の子会社は、取引、租税、製品、知的財産権等に関して、複数の訴訟の被告となる、政府機関の調査を受けるなど、複数の法的手続に関与しています。

当社及び一部の子会社は、これらの訴訟や調査に対応していますが、訴訟や調査の結果によっては損害賠償金や制裁金が課される可能性があるため、金額は不確定であるものの、合理的に見積り可能な制裁金を引当計上しています。

当社及び一部の子会社はいくつかの訴訟をかかえています。それらの訴訟による損害が仮に発生したとしても、要約四半期連結財務諸表に重要な影響を及ぼすものではないと考えています。

当社は、訴訟や当局の調査に関して、引当金以外の追加的な費用範囲の見積りは開示していません。調査や法的手続等には、複数の法的論点が存在し、多数の関与者が含まれ、あるいは関連法律が複雑又は不透明な海外案件もあり、そのような見積りは困難なためです。

2【その他】

(1) 配当決議

2022年10月31日開催の取締役会において、2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、第116期の中間配当を行うことを決議しました。

配当金の総額及び1株当たりの金額は、要約四半期連結財務諸表注記「4. (2) 配当金」に記載のとおりです。

(2) 訴訟等

当社に関する重要な訴訟等は、要約四半期連結財務諸表注記「10. 偶発負債」に記載のとおりです。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月10日

パナソニック ホールディングス株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人
大阪事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 敬

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 廣田 昌己

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中川 雅人

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパナソニック ホールディングス株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条により規定された国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、パナソニックホールディングス株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

要約四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき要約四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

要約四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、要約四半期連結財務諸表において、国際会計基準第1号「財務諸表の表示」第4項に基づき、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において要約四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する要約四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、要約四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・要約四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた要約四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに要約四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、要約四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。